

令和7年度（2025年度）学校評価報告書

園名	宝塚市立 丸橋 幼稚園	園長名	佐藤 奈美
----	-------------	-----	-------

1 学校教育目標

豊かな心をもち、たくましく生きる幼児の育成

2 重点目標

・自分の思いを伸び伸びと表現する幼児 ・相手の話をよく聞き、思いを分かろうとする幼児 ・最後までやり遂げる幼児 ・互いに認め合い、協力して生活する幼児
--

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目		達成状況	学校の取組状況・改善の方策
学校運営	開かれた園づくり	家庭や地域への情報発信 評議員会のご意見、行事ごとのアンケートなどを、園運営に活かす	A	コドモン、スマイル広場など発信の工夫をし、子どもたちの育ちや保育のねらいなどについて保護者と共有できるように努められた。 保護者・地域に園の取組などについて理解していただけるよう、今後も更なる工夫に努めたい。
	危機管理体制の整備	危機管理マニュアルの作成 定期的な訓練	B	水害、火災、地震と様々な想定をし、定期的に取り組めた。子どもたちは、真剣に取り組み、防災の意識をもっている。 どのような状況でも落ち着いて行動できるように、訓練の在り方を見直し、計画的な訓練を行いたい。
教育課程	幼児期にふさわしい生活の展開	年齢に応じた保育内容の工夫 魅力的な環境の構成や援助	A	子どもたちの興味・関心を取り入れられるよう保育内容を工夫し、自分たちで考え、友達と遊びを創ることを楽しめるように努められた。 日頃より、些細なことでも職員同士で伝え合い、考え合ったり、分かり合ったりしながら共に保育を進められるようにしている。
	人権教育	自分が好き、友達が好きという思いを育む 自分の思いを伝え、相手を理解する力を育てる	B	園生活の中で、自分の気持ちを伝え合ったり、分かり合ったりする機会を意図的に設けた。 また、一人一人のよさや頑張りをまずは教師が認め、周りの幼児に広めることを心掛けた。子どもたちが友達のよさを認めたり、頑張りを応援したりして、共に生活することを楽しめた。子どもたちが自分、そして友達を大切にできる気持ちがもてるよう、保育の工夫をすると共に職員自身の人権感覚を磨いていきたい。

4 評価項目ごとの学校関係者評価

保護者は子どもたちの普段の様子が見られることが嬉しいので、写真や動画で発信することはよいことだと思う。
定期的に訓練に取り組んでいると思う。A評価でよいのではないかな。
先生が子どもの様子を分かり、みんなで共有しているのがよい。 オープンスクールでのお話づくりなど、それぞれの好きなことを取り入れているのもよかった。
多様性が重視されているこの時代、ずっと学び続けなければならないし、昔の考えのままではいけないと私たちも考える。参観した生活発表会でも、子どもたちの助け合いができていた。ぜひ、これからも自分の気持ちを伝え合ったり、分かり合ったりする機会をたくさん設けてほしい。

課題教育	校種間の連携	互いの取組を伝え合い、分かり合う校種間の交流の機会をもつ	A	保育園・小学校と定期的に交流を行うことで、互いに親しみをもつと共に就学への期待・意欲にもつなげられた。新たに中学生と共に行事に参加でき、身近な存在と感じ、憧れの気持ちをもつことができた。 職員同士も互いの教育について話し合い、分かり合える場の更なる工夫に努めたい。	保幼小中で交流ができている。職員同士が声を掛け合い、連携をとっているのがよい。これからも続けてほしい。 5年生との交流では、5歳児が就学したときに6年生になっており、顔見知りの上級生がいることで安心できる。交流を通してつながりがもてる。
	特別支援教育	幼児の発達に即した指導や援助の工夫	B	一人一人の子どもの発達に合った援助ができるように、日頃から職員同士が気付いたことなどを伝え合い、共に支えることができた。 また、園内研究会や研修会参加の機会を設け、専門性を高められるように努めた。今年度の学びを来年度に活かし、今後も一人一人を大切できる保育を第一に考え行っていきたい。	子どものことを全職員で共有し、見守ることができている。子どもへの関わりが手厚くなっている。大切なことである。 絵や音楽など、それぞれの得意なこと、好きなことを活かしていけるとよいと思う。
独自項目	子育て支援	保護者の保育参加や参観 子育て相談・預かり保育・園庭開放・未就園児教室などの開催	A	ボランティア活動、運動会・オープンスクールなどの行事を通して、子どもと共に楽しめる機会を大切にし、成長を感じていただけるように努めた。 未就園児保護者にも、親子の触れ合いを楽しみ、幼稚園教育について知っていただけるように、遊びの場を開放できた。	保護者が子どもと共に楽しめるのがよい。一緒に楽しみながら、子どもの様子を見ることが出来る。オープンスクールでも、工夫されていた。
	異年齢保育の充実	異年齢の関わりを深める保育を探る それぞれの発達を大切にした保育	A	今年度は、少人数の中で、より刺激を受け合い、育ち合う保育を行えるように、異年齢学級での保育を進めた。活動によっては、各学年で取り組む場も設けながら、それぞれの発達に合った保育の保障ができるように努めた。今後も各年齢の発達と異年齢での関わり、どちらも大切にした保育を進めたい。	人数が多かろうが少なかろうが、子どもたちが笑顔で充実した園生活を過ごせていればよいと思う。異年齢保育は、とてもよい。年下の子どもは憧れの気持ちをもち、年上の子どもは思いやりの気持ちをもつことができる。少人数ならではのよさが出ている。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

行事ごとのアンケート、また年1回の総合的な保護者アンケートなどから評価を行い、十分に実施できている。

6 総合的な学校関係者評価

子どもたちのことをよく見ており、保護者ともよく話をしている。丸橋幼稚園ならではの保育ができている。これからも、ぜひ頑張してほしい。